

G空間情報センター

ニュースレター 第56号 2026年7月発行

【目次】

- [1. 【TOPICS】 まちの将来像可視化プラットフォーム: MY CITY FORECAST](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間: 2026.5.1 - 6.30\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. 公共交通のオープンデータ、もっと簡単に届けよう ～「GTFS データリポジトリ」のご紹介～](#)
- [5. G 空間情報センターAI アシスタントチャット試験公開](#)
- [6. FAQ 「ログイン不具合」 「API キー」](#)

1. 【TOPICS】 まちの将来像可視化プラットフォーム: My City Forecast



一般社団法人
社会基盤情報流通推進協議会

小俣 博司

近い将来、本格的な人口減少と超高齢社会を迎える日本において、各自治体は都市の構造を見直し、持続可能なまちづくり（コンパクトシティ化など）を模索しています。しかし、長期的な都市計画には専門知識が必要であり、行政と市民の間にはまちづくりへの関心や理解度に大きなギャップが存在していました。



図1：背景

- ・近い将来に訪れる人口減少社会の到来に向け地方自治体が都市構造のあり方を模索しており長期的な都市計画方針の見直しを行っている。
- ・しかしながら、地方自治体では市町村の都市計画策定において未だ地域データを十分に活用できていない実態がある。
- ・都市公共インフラの再編を最適化するためには、都市の人口や世帯の分布について詳細かつ正確な予測を行うことが重要である。



MY CITY F^oRECAST

図2：My City Forecast

■ オープンデータで未来を可視化する「My City Forecast Ver.1.0」

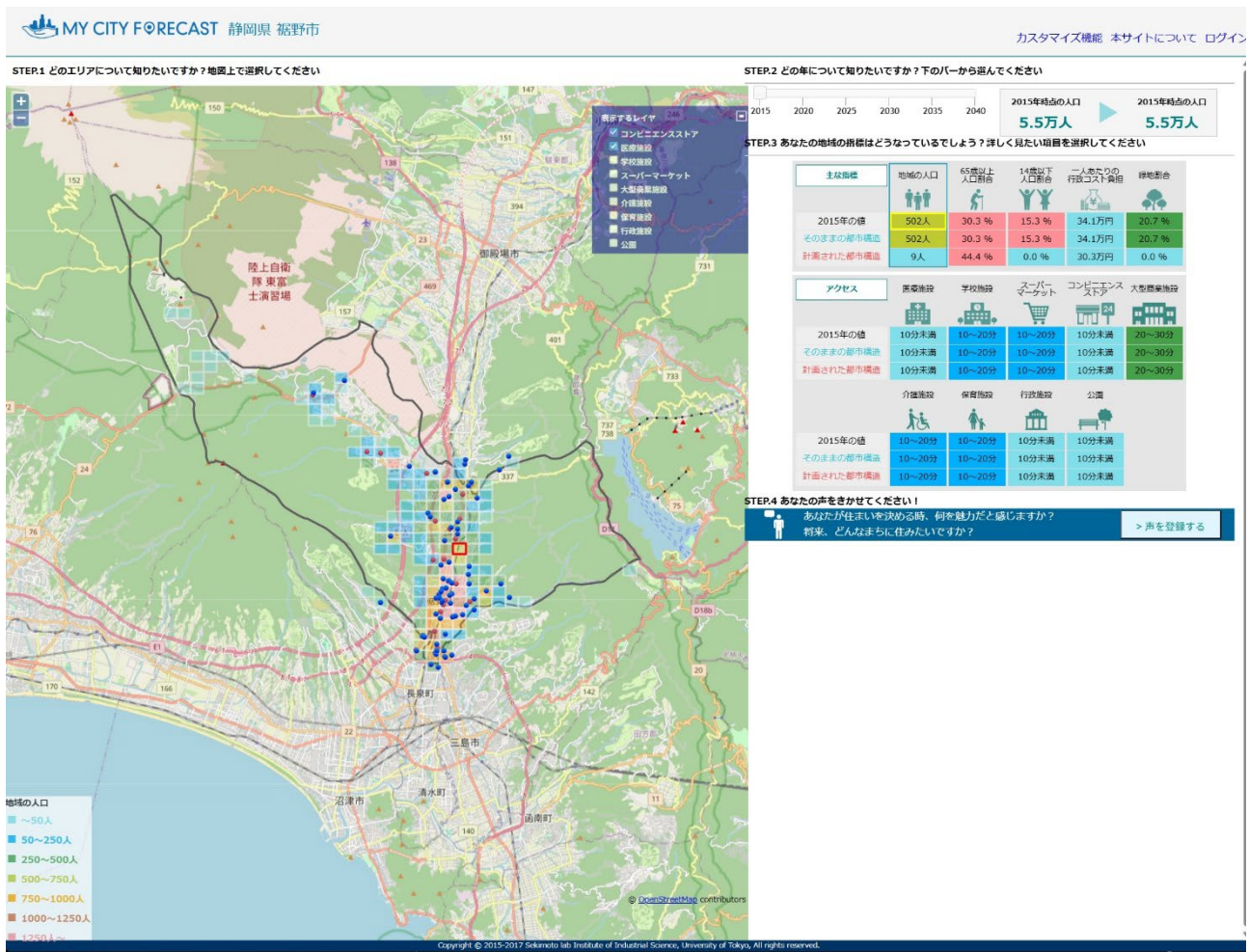


図3：My City Forecast Ver.1.0

2016年にリリースされたVer.1.0は、国勢調査や公共施設、決算などの公開データ（オープンデータ）を活用したWebベースの都市将来像可視化・簡易シミュレーションツールです。全国のほぼ全ての市町村（1670自治体）を対象に、誰でも無償で利用できるよう公開されました。

Ver.1.0では、対象地域を500mメッシュに分割し、2015年から2040年までの居住環境の変化をシミュレーションします。人口推移や一人あたりの行政コスト負担、医療施設や学校、スーパーマーケットへのアクセスなど、14の指標を通じて、将来のまちの姿を定量的かつ直感的に把握することができます。

また、自治体などが持つ独自のデータをアップロードし、居住誘導エリアの設定や施設の撤退基準（閾値）といったパラメータを変更することで、将来像を再計算できる「カスタマイズ機能(有償)」も提供されています。この機能を用いたワークショップが全国各地で実施され、例えば水戸市の調査では、居住誘導区域への移転に否定的だった市民の6%が、ツールを利用したことで「額によっては移転可能」と前向きな態度に変化するなど、データに基づく対話が市民の意識変容を促す効果が確認されています。

■ 身近なスケールでリアリティを伝える「My City Forecast Ver.2.0」

Ver.1.0 は全国で活用され一定の成果を上げましたが、500m メッシュという単位は市民にとって自身の生活圏としてのイメージが伝わりにくく、市町村境界付近での計算誤差が生じるといった課題がありました。これらを解消し、より身近なスケールで「未来のリアリティ」を伝えるためにアップデートが施されたのが「My City Forecast Ver.2.0」です。

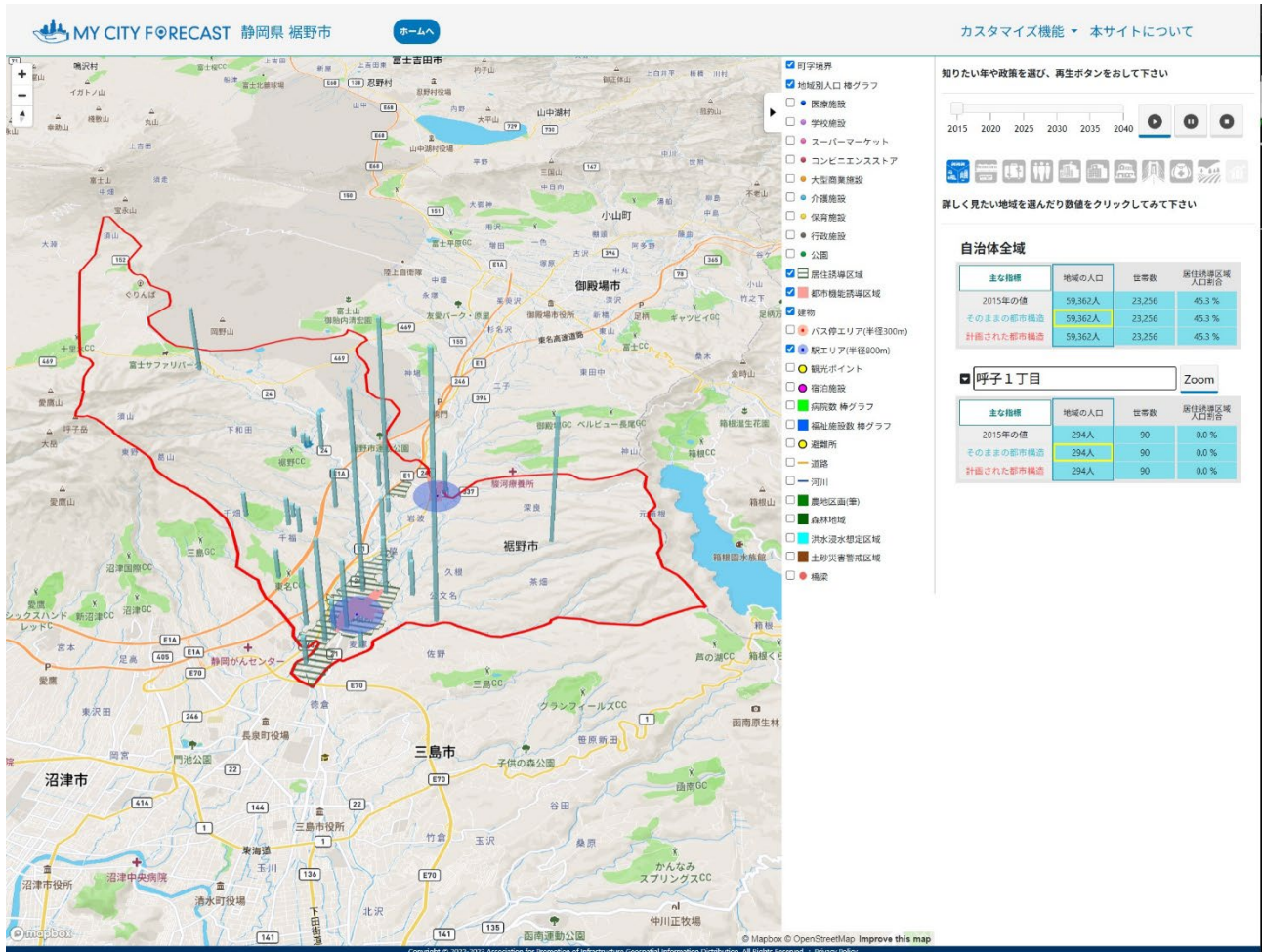


図4：My City Forecast Ver. 2.0

1. より身近な「小地域」への移行と、高度な「世帯推移モデル」の導入

Ver.2.0 の最大の特徴は、分析の単位を 500m メッシュ単位から、より生活実感に近い「町丁・字（小地域）」レベルへと変更した点です。これにより、「〇〇町〇丁目」の未来がどうなるのかを直接的に確認できるようになりました。

さらに、将来予測の裏側にあるモデルも高度化されています。従来の単純な人口推移（コーホート予測）だけでなく、世帯をエージェントとした「世帯推計データ」を新たに開発しました。出生や死亡はもちろん、家族の成長に伴う世帯の転出・転入といった移動までを確率で計算する「世帯推移モデル」を構築したことで、2015 年から 2040 年までの地域の姿をより高い精度で予測することが可能になりました。

2. 複雑なまちの課題を紐解く「10 の政策テーマ」

多様なまちの課題を整理するため表示する指標も更新されました。Ver.2.0では政策分野ごとに「10 の政策テーマ」に切り替えて表示するようになりました。

アイコンを選択するだけで、それぞれのテーマに応じた指標が地図上と表で可視化されます。

10 テーマ（政策）

- (1) 都市計画：小地域ごとの人口や建物数、居住誘導区域の人口割合
- (2) 交通政策：バス路線数や、バス停・駅のエリアカバー率、想定されるバスの運行費用
- (3) 観光政策：年間来訪者数や観光資源、宿泊施設の数
- (4) 人口政策：65 歳以上（高齢者）や 14 歳以下（子ども）の人口割合
- (5) 公共施設計画：公共施設や学校の数、その維持管理にかかる費用
- (6) 医療福祉政策：医療施設、病床、介護・福祉施設の数
- (7) インフラ政策：道路や河川の延長距離、橋梁の数
- (8) 防災計画：避難所数、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域に含まれる人口
- (9) 農林政策：農地や林地の面積割合、農業産出額
- (10) 住宅政策：世帯数や推定空き家率、建物の平均築年数

※このほか、経済政策のテーマも追加が検討されています。

3. 未来の変化を体感する直感的な UI/UX

Ver.2.0 では画面デザインや操作性も更新されています。地図は「2.5D」で立体的に俯瞰でき、建物の形状や階数までもが詳細に表示されるため、実際の街並みをイメージしやすくなっています。

シミュレーション結果は、「2015 年の現状値」、このままの傾向が続いた場合の「そのままの都市構造」、そして居住誘導などの対策をした場合の「計画された都市構造」の 3 パターンが、自治体全体と小地域ごとに並列表示され、政策の効果を一目で比較できます。

さらに、2015 年から 2040 年までの 5 年ごとの変化を、再生ボタンを押すことで 1.5 秒間隔のアニメーションとして自動遷移させることができます。人口減少によって将来維持が難しくなる施設に「Xマーク（消滅可能性）」がついていく様子が地図上で表現され、地域の変化を視覚的に共有することが可能です。

■ 全国対応の手軽さ

Ver.2.0 は、国勢調査や国土数値情報といったオープンデータを活用することで、全国 1,672 自治体、約 21 万の小地域に対応しています。My City Forecast は無償で手軽に高度なシミュレーションを利用できる点が大きな強みです。行政と市民が同じデータを見ながら未来を「自分事」として考え、根拠のある対話を生み出すための「まちづくりのプラットフォーム」として利用することが可能となります。

■MyCityForecast に関する情報

MyCityForecast 有償プラン

<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/mcf>

MyCityForecast 概要資料

- ・ Ver.1.0（カスタマイズ機能含む）

https://v1.mycityforecast.net/media/mcf_2017_overview.pdf

- ・ Ver.2.0

https://mycityforecast.net/static/docs/mcf_v2_202208_r3.pdf

■本件お問い合わせ先

G 空間情報センターお問い合わせフォームで、お問い合わせの分野「My City Forecast」よりお問い合わせください。

<https://front.geospatial.jp/inquiry/>

2.上位アクセス状況(集計期間：2026.5.1 - 6.30)

登録ユーザー数	130,737 名
期間アクセス数	447,946
登録組織数	777 件
データセット数	17,241 件
ファイル数	186,230 件

人気のデータセット

1	節点・補助基準点及び平成 16 年度～18 年度に実施した都市再生街区基本調査の成果、平成 22 年度より 実施している都市部官民境界基本調査の成果提供
2	3D 都市モデル (Project PLATEAU) ポータルサイト
3	全国の人流オープンデータ (1km メッシュ、市区町村単位発地別)
4	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
5	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
6	断面交通量データ (位置情報付) 提供 API
7	国有林 GIS データ (2024 (令和 6) 年度版) (最新版)
8	2025 年大阪・関西万博会場 3D 都市モデル (Project PLATEAU)
9	令和 2 年国勢調査町丁・字等別境界データ
10	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 八王子市 (2025 年度)

※今期集計結果については、システムメンテナンスの影響で従来の測定値より下回っております。
予めご了承ください

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[コチラ](#)

AIGID・G空間情報センター事務局は、8月10日（月）～8月14日（金）までお休みとなります。

最終更新順データセット一覧は[コチラ](#)

*リンクを開く際、少しお時間がかかる場合があります。

4. 公共交通のオープンデータ、もっと簡単に届けよう ～「GTFS データリポジトリ」のご紹介～



一般社団法人
社会基盤情報流通推進協議会

榎本 真美

自治体や交通事業者の皆様、GISをお使いの皆様、こんな悩みはありませんか？

- ・バス等のオープンデータを公開しているが、更新のたびにファイル差し替えや連絡作業に追われる
- ・Google マップや乗換検索アプリへのデータ掲載手続きが分かりにくい
- ・公共交通データをGISで可視化・分析したいが、どこから手をつければよいかわからない

一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会（AIGID）では、GTFSデータの登録・公開を行えるサービス「GTFS データリポジトリ」を提供しています。



図1：GTFS データリポジトリ (<https://gtfs-data.jp/>)

1. そもそも「GTFS」とは

GTFS (General Transit Feed Specification) は、バスや鉄道など公共交通の路線・時刻表・運賃といった情報を、世界共通のルールで記述するデータ形式です。日本国内では、この GTFS を日本の実情に合わせて拡張したローカライズ仕様である「GTFS-JP」が、国土交通省の標準形式として採用されています。

GTFS (GTFS-JP) データを整備・公開することで、Google マップや乗換検索サービスへの経路情報掲載、バス停のデジタルサイネージ表示など、さまざまなサービスに一つのデータを使い回すことができます。

なお、GTFS-JP の仕様は継続的に更新されており、[国土交通省の地域交通 DX 推進プロジェクト「COMmmONS \(コモンズ\)」](#) の取り組みの一環として、2025 年度には「[GTFS-JP アップデート](#)」が実施され、最新版として「[公共交通運行情報標準データ仕様 \(GTFS-JP\) v4 仕様書](#)」が公開されています。データ整備をこれから始める方は、この最新仕様に沿った対応が推奨されます。

2. 「GTFS データリポジトリ」とは

GTFS データリポジトリは、一言でいうと GTFS データの「倉庫」です。[\(一社\) 日本バス情報協会](#) 協力のもと、AIGID が開発・運営しています。

GTFS データリポジトリ

検索条件

基本情報

都道府県、事業者名・IDでフィルタリング

都道府県

富山県

事業者名

前方一致で検索します

事業者ID

完全一致で検索します

クリア

検索結果

オープンデータに適したライセンス

静的とリアルタイムのURL

有効期間

更新日

事業者名	都道府県	GTFSフィード名	ライセンス	URLs	最新GTFS開始日	最新GTFS終了日	最終公開日	詳細
富山地方鉄道	富山県	富山地方鉄道バス	CC0 1.0 公開元: 富山地方鉄道	GTFS, TripUpdate, VehiclePosition	2023-04-03	2024-04-02	2023-04-06	詳細
富山地方鉄道	富山県	富山地方鉄道市内電車	CC0 1.0 公開元: 富山地方鉄道	GTFS, TripUpdate, VehiclePosition	2023-04-17	2024-04-16	2023-05-18	詳細
射水市	富山県	きときとバス	CC0 1.0 公開元: 射水市	GTFS, TripUpdate,	2023-03-19	2024-03-18	2023-03-06	詳細

<https://gtfs-data.jp/search?pref=富山県>

図 2 : GTFS データリポジトリの画面イメージ

このリポジトリにデータを登録することで、これまで個別に行っていた次のような作業が大きく簡素化されます。

(1) 固定 URL で自動連携

ダイヤ改正のたびに URL が変わる従来の配布方法とは異なり、GTFS データリポジトリは**固定 URL** でデータを配信します。Google マップやサイネージ側で一度 URL を設定すれば、その後の改正データは自動的に反映されます。

(2) 「現行・予定・過去」データを自動管理

乗換検索サービスには改正の 2 週間前に、Google には 1 週間前に、サイネージには当日未明に——など、システムによってデータが必要なタイミングは異なります。GTFS データリポジトリはこれらを時系列で保持し、改正日に合わせて自動的に切り替えます。

(3) 検証エラーを自動チェック & 日本語で解説

データ登録時に自動で GTFS の検証 (Validation) が実行され、エラー内容は日本語でわかりやすく解説されます。専門知識がなくても、データの品質を確認しながら公開できます。

(4) 可視化や分析も簡単に

公共交通計画策定支援ツール「LINKS Mobilys」を使えば、ブラウザ操作だけでリポジトリ上のデータを読み込み、行本数や到達圏、OD 輸送量といった交通サービスの状況を地図・グラフ上で可視化できます。GIS やデータ分析に馴染みのない方でも、データ収集・資料作成の負担軽減と、データに基づいた政策立案が可能です。

(5) 自治体・事業者間の共同管理も可能

県・市区町村・交通事業者・データ整備会社など、複数の組織・アカウントで 1 つのデータを共同管理できる仕組みも備えています。

到達圏分析 (バッファ)

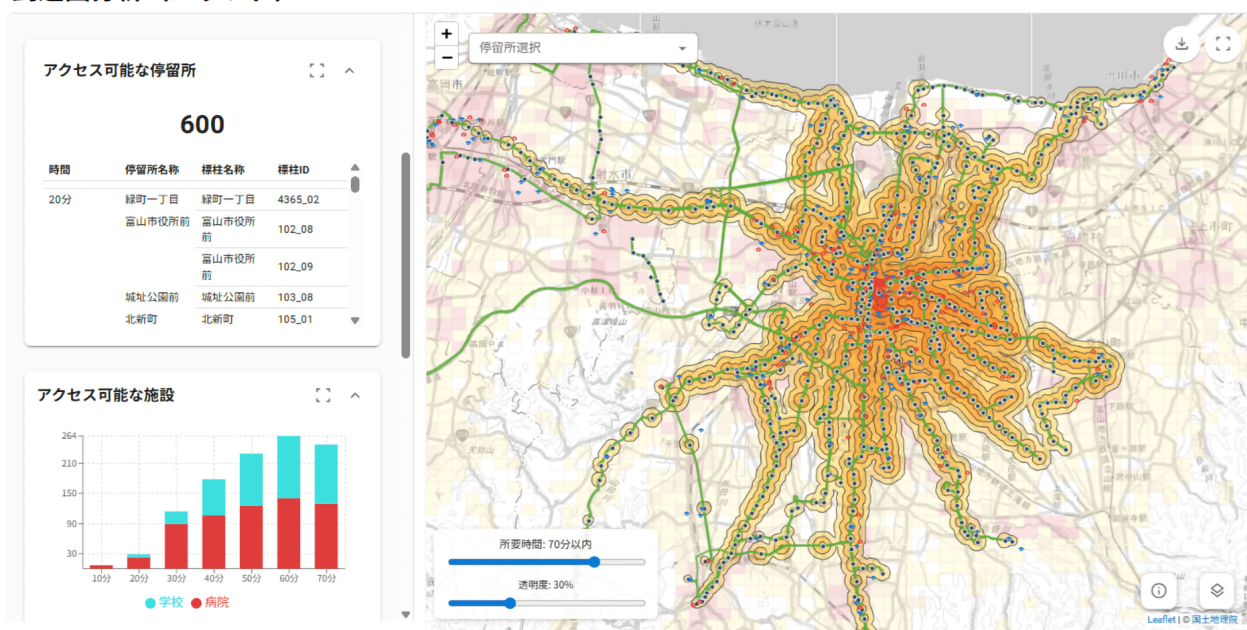


図 3：公共交通計画策定支援ツール「LINKS Mobilys」のデータ分析イメージ

3. なぜこの仕組みが重要なのか

GTFS データリポジトリのような基盤が広がることで、全国の交通事業者等が経路検索サービス等に円滑にデータを掲載できるようになります。これは単なる業務効率化にとどまらず、地域住民や訪日客を含む観光客へのわかりやすい情報発信を推進することにもつながります。

正確でリアルタイムな公共交通情報が届くことで、交通サービスの利便性を向上させ、「地域の足」「観光の足」の確保に貢献する——これが GTFS データリポジトリの目指す姿です。

すでにオープンデータを公開している自治体・事業者の方も、これから公開を検討されている方も、まずは仕組みを知ることから始めてみませんか。

■本件お問い合わせ先

詳しい導入方法やご相談は、お気軽にお問い合わせください。

gtfs-office@aigid.jp

<https://gtfs-data.jp/>

5. G 空間情報センターAI アシスタントチャット試験公開

6月29日より、データセット検索でAI アシスタントチャットでの試験公開を開始致しました。

ご利用方法に関してのご案内を G 空間情報センターサイトにて公開中です。

詳しい操作方法等は[こちら](#)

ご不明な点やお気づきの点ございましたら、FAQ ご一読のうえ、お問い合わせ分野「その他」にてご連絡の方よろしく申し上げます。

6. FAQ「ログイン不具合」「API キー」

システムメンテナンスに伴い、下記情報を掲載しております。

お手数ですがご一読のほどよろしくお願い申し上げます。

■ ログイン不具合に関するお知らせ [5月27日掲載](#) [7月10日掲載](#)

■ API キー廃止に伴う API トークンの導入 [利用方法詳細マニュアル](#)

G 空間情報センターお役立ち情報

◆ G 空間情報センター F A Q は [こちら](#)

法務省登記所備付地図データ関連の情報等、よくあるお問い合わせを掲載しております。

◆ [G 空間情報センターの YouTube チャンネル](#) をご活用ください☆

G 空間情報センターの使い方解説や、最新データセットの公開ご案内等、動画でご案内しております。チャンネル登録いただきますと、新しい動画の公開通知等が取得可能です。ぜひご活用ください。

◆ G 空間情報センターサイトからの [お問い合わせ](#) は、該当の **データセット名** と **URL** を併せてご連絡いただくとスムーズです。

ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

G 空間情報センター

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5-203

Email : info@geospatial.jp

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。